

胃カメラ(胃・食道・十二指腸の内視鏡検査)を受けられる方に

【検査の目的と方法】

貧血や腹痛の原因を調べたり、潰瘍、ポリープ、癌などを診断するために口から内視鏡を食道、胃、十二指腸に入れて観察します。その際必要であれば病変の一部を採取して組織検査を行います。
また出血している病変があった場合はクリップやエタノール局注などによる止血術を行うこともあります。

【検査前の注意】

バイアスピリン、アスピリン、バファリン、パナルジン、ワーファリン、プレタール等血液が止まりにくくなる薬を服用している方は事前に申し出て下さい。
狭心症、心筋梗塞、不整脈、緑内障、前立腺肥大のある方も申し出て下さい。

【検査に伴う副作用・偶発症】

使用する薬剤による副作用:

検査の際には、のどの局所麻酔や胃腸の緊張をとるための鎮痙剤の注射をします。また苦痛を和らげるための鎮静剤や鎮痛剤を注射することもあります。これらの薬剤により稀に発疹、嘔気などの副作用が起こります。検査終了後に目の焦点が合わなかったり、眠気を催すことがあるため、車の運転などはおやめください。

ごく稀にのどの麻酔に用いるキシロカインによるアレルギー(ショックなど)、抗コリン薬によるショック、鎮静剤による血圧低下、呼吸抑制などの重篤な副作用を起こすこともありますが、頻度は0.0059%(約17,000検査に1件)です。

検査手技に伴う偶発症:

内視鏡検査や組織検査により、稀に出血や消化管の損傷、穿孔(消化管に傷がついたり穴があいたりすること)などの重篤な偶発症を起こすことがあります。また検査後に喉の痛みや違和感が数日残ることもあります。

1998年から2002年の日本消化器内視鏡学会の全国集計では上部消化管内視鏡検査の偶発症の発生頻度は0.012%と報告されています。稀に死亡例の報告もあります。また内視鏡の挿入に際して、咽頭反射により自律神経を介して心臓肺機能に少なからず悪影響がある場合があります。

検査後に吐血、下血、タール便(黒い便)や強い腹痛などがあった場合には、当院に御連絡下さい。万一、副作用、偶発症が起きた場合には最善の処置・治療を行います。入院や緊急の処置・輸血・手術などが必要になることがありますが、その際の診療も通常の保険診療にて行います。

以上、了解された方は同意書にご署名の上、医師または看護師にお渡し下さい。同意が得られない場合は検査は行いません。また同意書を提出された後でも検査を中止することができますので、いつでもお申し出ください。

上部消化管内視鏡検査同意書

製鉄記念室蘭病院 院長殿

私は、食道・胃・十二指腸の内視鏡検査を受けるにあたり、検査の目的や方法、副作用・偶発症について依頼元医療機関名 _____ 担当医 _____ より説明を受け、十分理解した上で検査を受けることに同意いたします。

日 付 (ご自署):(西暦) _____ 年 _____ 月 _____ 日

患者様(ご本人)(ご署名): _____

代諾者様(ご関係者)(ご署名): _____ (続柄) _____